

～アルシェ10周年事業実行委員会～

きたる12月22日におこなわれる10周年記念事業の企画として、各委員会がインタビューを受けることになりました。

わが広報委員会はトップバッターとして、先日インタビューを受けました。委員会活動してきて「ええなあ」と思うことをそれぞれがそれぞれの立場で語り、最後には団結した姿をビデオに収めていただきました。

私たち広報委員会の「やったるでえ」が感じていただけたと思います。これからも、楽しい紙面作りができるよう、頑張ります！



これからもよろしくお願いします！



Arche Letter

NPO中間支援組織
アルシェの情報誌

Vol.23



アルシェって？

北播磨地域の市民活動活性化を目的とし、活動しています。

おもな事業

エクラ指定管理・行政の事業受託
NPO支援事業・子育て支援事業 他

2013年9月22日発行
NPO法人 北播磨市民活動支援センター
(愛称:アルシェ)



考えてることしかべらせてもらいます！



「アルシェ10周年にあたり」

アルシェ10周年記念事業実行委員長

なかしま ゆういち
中島 祐一

2003年小野の地にNPO法人北播磨市民活動支援センターが誕生して今年で10年の月日が経過する。その間小野市うるおい交流館エクラの指定管理、市民活動の自立活性化事業、子育て支援事業、各種委員会活動等々さまざまな事業を行ってきた。その過程において、アルシェには多くの人々、団体が集い現在のにぎわいを作り出している。

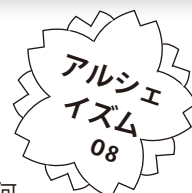
ではなぜ地域、性別、年齢

を超えた多くの人たちがアルシェの活動に参加し、活発に活動をされているのだろうか？

そもそもボランティア活動というものは、それに参加する人たちが無理をしながら行うのではなく、活動する一人ひとりが自分の余裕のある時間を提供し、まちづくりや子育て等様々なことに「楽しみ」や「やりがい」を感じ、違いはあっても人々が自分の活動に価値を感じる事が大切だと私は思っている。現在のアルシェには人々を引き

付ける「楽しみ」や「やりがい」が多く存在しているに違いない。だからこそ人々が集まり活発な活動を続けているのだと思う。

人それぞれの「楽しみ」、「やりがい」は個々の価値観に依る処が多いのだが、今後10年先、20年先へとにぎわいを続けていく為に価値を共有できる仲間作り、環境づくりを継続して行っていく事がアルシェの成長にも繋がると思う。



アルシェの主義主張を聞いていただくという、何とも手前みそなこのコーナー。今回はアルシェ10周年記念事業実行委員長の中島さんに、ひと言いただきました。